

国際社会科学

■入門

521001 国際関係論Ⅰ

【到達目標】

- ・国際関係論の基本的な概念や理論を理解する。
- ・国際関係をめぐる歴史を理解する
- ・国際関係論における様々な理論がどのような歴史的背景の中で生じたのかを説明できるようになる

【概要】 国際政治学の見地から、国際関係の構造や問題状況を考察する。現代の国際関係の基本的な構造である主権国家体制がどのように出現したのか、どのように変化してきたのかを、近代および現代の国際関係の歴史を振り返りながら確認する。また、国際関係論における主要理論であるリアリズムとリベラリズムの考え方を理解し、国際関係における主な歴史的事象を理論を利用して検討する。さらに、国家間で繰り広げられてきた協力や争いの要因がどこにあるのかを、関係国の国内政治や国際構造から抽出することを目指す。

521002 国際関係論Ⅱ

【到達目標】

- ・国際関係における様々な事例の現代的な特徴を理解する。
国際関係論における基本的な理論や概念を用いて事例を分析できる。
- ・事例分析を通して、自分の意見の構築につなげることができる。

【概要】 国際関係論Ⅰに続いて国際関係論の主要な理論を学ぶ。その上で、国際関係論における基本的な理論や概念を用いて、具体的な国際問題を考察する。第二次世界大戦後から冷戦時代、そして1990年代以降のグローバル化の時代において、何が問題となっているのか、それぞれの問題についてどのような問いを立て、どのように解釈すべきかを考える。事例として、国連における国際平和の実現、人道的介入の問題、少数者の保護のあり方、持続可能な開発、難民・移民の保護などを取り扱う。

521003 文化人類学Ⅰ

【到達目標】

- ・文化人類学において扱う概念や考え方、学問の歴史についての基礎知識を身につける。
- ・文化人類学の研究手法について理解する。
- ・世界の様々な文化について学び、自文化を相対化し問い直す視点を習得する。

【概要】 文化人類学の基礎を学ぶための講義を行う。履修者は、文化人類学の基礎的な概念や考え方について、世界の様々な文化・社会を対象に、交換・経済、貨幣、親族・家族、

儀礼、宗教、動物、国家などの多様なテーマに即して学習する。学問としての文化人類学の発展の歴史や、研究手法としてのフィールドワーク、またその成果としての民族誌とは何であり、それはどのように描かれるのか等についても合わせて議論する。履修者はこうした学びを通じて、自分と異なる他者を理解すると同時に、自文化を相対的に理解し問い直す、文化人類学的な視点を身につける。

521004 文化人類学Ⅱ

【到達目標】

- ・文化人類学において扱うさまざまな概念や考え方についての知識を身につける。
- ・文化人類学が現代社会の抱える課題について分析するための方法論を理解する。
- ・現代世界のさまざまな文化・社会的事象について、自分で具体的な分析対象を設定し、文化人類学的視点からそれを考察する力を習得する。

【概要】 文化人類学の基礎を学びつつ、現代世界における多様な文化・社会的事象を、文化人類学的な視点から検討するための講義を行う。特に、文化人類学における現代的課題、例えば自然と人間の関係、テクノロジーの進化、呪術と科学、芸術、負債、グローバリゼーション、戦争、ケア、市民社会といった多様なテーマを扱うことで、履修者は現代世界の抱える課題とこれからの社会・文化を、文化人類学的視点から分析する。こうした学びを通じて、履修者各自で具体的な分析対象を設定し、文化人類学的視点からそれを考察する力を身につける。

■基盤講義

521101 政治学概論

【到達目標】

- ・政治学の基礎概念についての知識を習得する。
- ・政治学の基礎概念を操作可能な形で運用する能力を養う。
- ・さまざまな政治理論を用いて政治的現象を批判的に理解する能力を養う。

【概要】 公の空間においてはすべての問題が政治的問題となる。したがって環境問題や食品偽装問題も政治学の対象になる。その一方で、時代が変わっても政治的なものの本質は変化しない。そのようなスタンダードな政治学を国際政治学まで含みながら講義する。政治思想とイデオロギー、政治意識、政治指導者と大衆、官僚制、政党、マスメディアの政治的機能、政治体制論、さらに比較政治や国際政治に関しても講義する。

521102 法学概論

【到達目標】

- ・法律や法制度に関する基本的な知識を習得する。

・法律を意識せずとも社会生活を送るためのリーガル・マインドや法的な見方ができるようになる。

・日々のニュースに対して、自分自身で物事の正・不正についての意見を持ち、論理的思考能力を身につけられる。

【概要】 この講義では、身近なニュースを素材にして法律の基礎を学ぶ。民法や行政法、刑法、そして日本国憲法を通して、私たちの暮らす流動的な社会を「法的に」理解することを目的とする。報じられる事件や事故は感情に影響を与えるが、冷静に法的根拠に基づいて考察していくこととする。さらに、メディアで話題になっている法現象について、法律条文や裁判と結びつけて学生と教員とが一緒に考えることで、ニュースを公正に見る目を養う。

521103 国際関係史

【到達目標】

- ・ 20 世紀以降の国際関係史の概要について理解する。
- ・ 今日の国際社会において生起する諸問題を歴史的視点から理解する能力を身につける。
- ・ 国際関係の歴史をさまざまな観点から見る手法を習得する。

【概要】 現代の国際関係を理解するために、主に 20 世紀以降の国際関係史に関する知識を得ることを目標とする。今日の現代世界は、急速に一体化しているが、その動きは実際には、国内政治の動きだけではなく、貿易や外交交渉を通じた国家間関係、国境を越えた国際的組織の動向に大きく影響されている。このダイナミズムを理論的に把握することを目指す。特に、20 世紀初めの二つの世界大戦と、両大戦間の歴史的考察を行い、戦争と平和の問題についての考察に繋げる。

521104 国際社会方法論入門

【到達目標】

- ・ 方法論の基礎について学習する
- ・ 社会科学における分析や調査の方法を学ぶ
- ・ 国際社会における様々な問題を理論的に分析する手法を身につける

【概要】 国際社会における問題を分析するためには、社会科学とは何か、科学研究とはどのようなものを理解することが必要である。この授業では、適切なリサーチクエッションの立て方、研究方法の設定の仕方、研究対象の選定の仕方、データの収集や整理の方法、議論の根拠の導き方などについて学んでいく。方法論における多様なアプローチを学びとることを通して、自分自身の問題関心を科学的な問いと分析に発展させることが目標である。

521105 平和学

【到達目標】

- ・「平和」とは何かについて理解する。・まさに今現在の国際社会の情勢や国際問題・紛争を認識して、「平和」の実現方法を模索する。・「平和」をめぐる紛争と人間との係わりを考察する基礎的な能力を養う。

【概要】 私たちは、これまで「平和」について真剣に考えたことがあったであろうか。「平和」を追求すべきだとの価値観に立つ学問が「平和学」である。この講義では、国際社会の紛争やそこでの個人の安全という観点から、様々な「平和」概念の整理したうえで、「構造的暴力」や「積極的平和」という論争的な概念を学び、「平和」の視点から複眼的に社会への問題意識を持つこと、そして、それぞれの事例に応じた適切な「平和」的な解決方法を発見、理解し、自分なりの考えを構築することを目指す。

521106 日本の社会と文化（日本史概論）

【到達目標】

- ・原始・古代から現代までの日本歴史の概要について理解を深める。
- ・日本国家の形成、政治・社会のあり方、また日本人の思想等についての変遷に関する歴史的事実を習得する。
- ・日本の歴史を国際関係との関わりからみる視点を養う。

【概要】 この授業では、原始・古代から近現代までの日本の歴史について概観する。日本列島における日本国家の形成や政治・社会等のあり方とその歴史的变化、及び諸外国との関係をみていくことにする。そこでは中央政治のみならず、地方政治のあり方、また朝廷や幕府などの武家政権のみならず、一般民衆の生活や思想、信仰などにも論が及ぶことになる。さらに国際関係、とりわけ東アジア世界や西洋諸国との関係が、日本の歴史を考える上では不可欠であるので、その点についても講義を進める。

521107 中国の社会と文化（東洋史概論）

【到達目標】

- ・アジアの歴史について大きな流れを理解する。
- ・日本にとってのアジアの意味とその理解の変化について把握する。
- ・今日のアジアにおいて顕在化している諸問題について、歴史的視点から考える姿勢を身につける。

【概要】 東アジアを中心とするアジアの歴史を古代から現代まで概観することにより、この地域において生起する諸問題を歴史的視点から理解する習慣を身につけるようにする。重要と思われるトピックをいくつかとりあげて、その歴史的背景について整理、紹介する。あわせて近代日本における東洋史学の成立や東洋史学上の重要な論争にかんする史学史

を概観することにより、近代以降の日本が「東洋」を通じてどのような世界像を描こうとしてきたかを批判的に検討する。

521108 朝鮮の社会と文化（東洋史概論）

【到達目標】

- ・アジアの歴史について、社会と文化の側面から体系的に習得する。
- ・日本にとってのアジアの意味とその理解の変化について理解する。
- ・今日のアジアにおいて顕在化している諸問題について、歴史的視点から考える姿勢を身につける。

【概要】 東アジアを中心とするアジアの歴史を古代から現代まで概観することにより、この地域において生起する諸問題を歴史的視点から理解する習慣を身につけるようにする。重要と思われるトピックをいくつかとりあげて、その歴史的背景について整理、紹介する。あわせて近代日本における東洋史学の成立や東洋史学上の重要な論争にかんする史学史を概観することにより、近代以降の日本が「東洋」を通じてどのような世界像を描こうとしてきたかを批判的に検討する。

521109 グローバルヒストリー（西洋史概論）

【到達目標】

- ・西洋史と日本史のつながりを理解する。
- ・グローバルな視点で歴史を考える。
- ・世界史の流れを近代化・大衆化・グローバル化の観点で理解する。

【概要】 主として近現代世界史を、グローバル・ヒストリーの観点から概観する。古代から中世の世界史の概要を考察した上で、高等学校の新科目「世界史探究」「歴史総合」を念頭に、近代社会の成り立ちから、近代化の後大衆化が進む社会の変容、グローバル化が地球全体に及ぼす影響を明らかにしているかを論ずる。本科目は、発展的な内容より、世界史の全体像を理解してもらうことが目的である。くわえて、現在の世界の諸問題に対して、問題意識をもって考察する力を育成することに重点をおく。

521110 アメリカの社会と文化（アメリカ社会基礎論）

【到達目標】

- ・アメリカ社会と文化の成り立ちの概要を理解する。
- ・アメリカ社会と文化の基本的特徴を理解する。
- ・アメリカ社会と文化の通時的変化を理解する。

【概要】 この授業では、アメリカの政治や外交の基盤となるアメリカの社会と文化について、特にその宗教的・思想的背景を学ぶ。授業は、植民地時代から現代に至るまでを時代順に、いくつかの時期に分けて、考えてみる。扱うトピックは、現代アメリカを理解する

上で欠かすことのできない、ピューリタニズム、福音主義、ファンダメンタリズムといった宗教的運動の諸相等、あるいは、トランセンデンタリズム、プラグマティズム、多文化主義といった文化的運動の諸相等である。

521111 東アジア社会基礎論

【到達目標】

- ・中国、朝鮮半島を中心とする東アジア諸地域の社会について、その特徴を理解する。
- ・東アジア諸地域との比較の視座から日本社会の特徴について理解する。
- ・社会や文化を理解する基礎的な方法を習得する。

【概要】 地域研究の基礎として、東アジア諸地域の社会を理解するための基礎知識の習得をはかる。日本、中国、朝鮮半島など、それぞれの地域の社会について、具体的な事例をとりあげつつ、基礎的な分析方法を紹介し、あわせてそれぞれの地域の比較や欧米社会等との比較を通じて、その特徴を理解することを試みる。それによって、東アジアの諸地域について、歴史、文化、思想、宗教、政治、経済などを総合的かつ多面的に理解するための基礎を身につける。

521112 東南アジア社会基礎論

【到達目標】

- ・東南アジアにおける風土・人間・社会・文化・歴史などについての基礎知識を身につける。
- ・東南アジア地域特有の社会的、歴史的、文化的トピックについて考え理解する。
- ・東南アジアにおけるさまざまな社会・文化的事象について、日本の状況と比較しながら考える姿勢を身につける。

【概要】 東南アジア諸社会を特徴づける自然風土、言語、民族、社会構造、宗教、政治、経済、日常生活などについて、初学者が基礎的な知識と理解を得るための講義を行う。とりわけ、東南アジアの「伝統的」社会の文化的多様性・多元性と統一性、ポストコロニアル国家による「国民の文化」「国民の歴史」の創出、開発と人権、国家と民族、中間層の出現などの多様なトピックからいくつかの事例を取り上げ、東南アジアに関する理解の土台を提供することを目標とする。

521113 多文化コミュニケーションデザイン

【到達目標】

- ・多文化社会・ダイバーシティに関する知識と視野を自ら広げていく能力を身につける。
- ・コミュニケーションデザインに関する基礎知識を身につける。
- ・ファシリテーションに関する基礎知識と基礎的实践力を身につける。

【概要】 1) 多文化化する日本及び地域社会における様々な課題を取り上げ、対話を通してその理解を深める。

2) 多文化化する日本及び地域社会における様々な課題を解決していくためのコミュニケーション・デザインやファシリテーションの手法を学ぶ。

本授業では、大学外の地域（西荻を中心とする杉並区）・地域住民とつながり、何らかの実践を「デザイン」し、その過程においてグループのメンバーと協調的に実践に取り組み、地域・地域住民と社会人としての自覚と責任を持って協働し、「何か」を実現していくことが求められる。

521114 言語の多様性と普遍性

【到達目標】

- ・言語データを分析し、背後にある構造や言語能力のしくみを考える基礎と分析能力を身につける。
- ・日本語、英語とは異なるタイプの言語に触れ、言語間の共通性や相違点に注目し、言語を相対化して見る視点を身につける。
- ・人間の言語能力の普遍的特徴が、どのように個別言語の言語現象に反映されているかを理解する。

【概要】 日本語・英語・その他の自然言語には、非常に異なって見える現象の背後に共通のシステムを見出すことがある。そのような発見を通して、自然言語において基本要素を組み合わせる複雑な表現を作るしくみ、こどもが周囲の会話を手がかりに母語を獲得する上で必要となる生物学的な基盤と環境との関わりを考える思考法を身につける。履修者の多くにとって、自覚する間もなく習得した日本語、学ぶべき外国語とされている英語を、他の言語と並べて分析する体験を通して、自分が持つ枠組みを相対化して見る姿勢を身につける。

■応用講義

【国際関係学】

521201 ジェンダー国際関係論

【到達目標】

- ・ジェンダーという概念を理解する。
- ・国際関係における女性の歴史的役割を理解する。
- ・多様なレベルで展開される国際関係の現状をジェンダーの観点から理解する。

【概要】 国家間外交、また、国際関係史における女性の役割を歴史的にたどり、ジェンダーが国際関係においてどのような機能を付与されてきたかを考える。また、現代の国際関係における女性の役割、ジェンダーの機能についての知見を深める。外交のプロフェッショナルとしての女性のもとより、国際労働移動の女性化、戦争における被害者、また、加

害者として女性など、多角的な局面における女性の国際的役割や経験またジェンダーの機能について学ぶ。

521202 国際関係法 I

【到達目標】

- ・国際法の基礎的概念を身に付ける。
- ・まさに今現在の国際社会の情勢や国際問題・紛争を認識する。
- ・国際社会の諸問題に対する「法的な」見方・考え方を養う。

【概要】 この講義では、国際法の総論的部分を中心に学ぶ。国際社会において、そもそも国家とは何か、国家はどのようなルール（＝国際法）に従って行動するのか。そのルールから逸脱する場合にも、直ちに合法・違法の決着がつかないこともありうる。この講義では、総論的にその解決の基礎となる「ルール（＝国際法）」として、国際法の基礎概念や法源、国家管轄権、国際法と国内法の間係を学び、国際社会の具体的紛争や国際判例に触れながら、「国際社会の法構造」を理解していく。

521203 国際関係法 II

【到達目標】

- ・国際社会が抱える各論的課題を国際法的視点から解決する枠組みを理解する。
- ・まさに今現在の国際社会の情勢や国際問題・紛争を認識する。
- ・国際的な紛争解決の様々な局面で、国際法がどのような機能を果たしているかを分析する。

【概要】 この講義では、「国際関係法 I」での総論を踏まえて、領土問題や海洋法、外交関係・領事関係など、様々な国際問題に国家がどのように行動し、紛争解決を試みるのかという点も視野に入れて、現代の国際社会が抱える具体的な国際問題や紛争を理解し、国際法の実際的側面の習熟を目指す。日々流動的な国際社会における様々な局面で、国際法がいかに機能しているのか（あるいは、機能していないのか）を具体的国際紛争を通して履修者全員で考察していく。

521204 国際機構論

【到達目標】

- ・普遍的な国際機構としての「国際連盟」およびそれを引き継ぐ「国際連合」の基礎知識を理解する。
- ・現在起こっている具体的な国際紛争や事例を通して、国際社会が抱える課題を解決する「制度的枠組み」を理解する。
- ・国際機構の構造や機能を設立根拠法に基づいて分析する能力を養う。

【概要】 この講義では、分権的国際社会がなぜ「協力」を欲し、いかに組織化を進めてき

たか、その結果誕生した「国際機構」とは何かという視点から、国際社会の諸問題を検討する。国際連合などの国際機構を法的な観点から検討することによって、さまざまな国際機構の目的、任務、構造、活動などについて理解し、それらの機構が国際社会の組織化、国際紛争の平和的解決、人権や環境の保護に果たす機能について考察する。地球規模での協力を必要とする現代的課題の検討を通して、各論的に国際協力や国連の現状とその課題を含め、今後の議論の方向を展望する。

521205 現代アメリカ政治論

【到達目標】

- ・アメリカの政治の基礎知識を習得することで、アメリカ政治を含めた現代政治をより体系的に理解する力を養う。
- ・現代アメリカの政治について、基本的な知識に基づいて分析する能力を習得する。
- ・アメリカ社会をより客観的な視点から総合的に理解する能力を身に着ける。

【概要】 現代アメリカの政治制度、政治的イデオロギー、政治的争点などに関して基本的な知識を習得することを目標とする。大統領制、権力とリーダーシップ、議会制度、選挙制度、政策決定システム、2 大政党制、保守・リベラルの 2 大イデオロギー、連邦制、などについて、歴史的な視点を踏まえつつ解説する。そして、それらの知識をもとに、現代アメリカ政治が抱える諸問題についての総合的な理解を目指す。

521206 アジア国際関係論

【到達目標】

- ・アジアにおける国際関係の歴史と構造を学び、当該地域の国際政治に関する基礎的概念を理解する。
- ・アジアにおける主要アクターである日中米の外交政策を理解する。
- ・政治学的な視点によって、アジア諸国の関係を分析する能力を身につける。

【概要】 第二次世界大戦後、ヨーロッパで確立した国際冷戦構造が、アジア各地の内戦構造に結びついていく過程を説明する。その上で、90 年代のソ連崩壊、中国の大国化に至る東アジアの国際関係を、中国外交、日本外交を中心に論じる。アジアに大きな影響力を持つアメリカ外交の特徴についても触れる。事実関係を学ぶと同時に、戦後アジアの国際関係を理解するために不可欠な基礎概念として、外交、戦争、植民地、ナショナリズム、帝国主義、国際協調、歴史認識、世論、情報戦、核問題などについても説明する。これらを通じ、戦後東アジア国際関係の現状と全体像を理解することを目標とする。

521207 開発経済学 I

【到達目標】

- ・開発経済学の基礎的な概念を習得し、状況を客観的に捉える力を身につける。

- ・SDGsにつながる具体的な政策及びその基盤となる理論を習得する。
- ・ジェンダーの視点を統合した分析を身につける。

【概要】 開発経済学は、人々の生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や格差の問題を扱い、その実態と原因を一国及びグローバルな視点で分析し、より良い経済発展の方策を探るための学問である。「開発経済学 I」では、貧困と不平等の定義と計測方法をめぐる議論、様々な学派による経済成長に関する理論、教育と保健・医療を焦点とする人的資本論、人口の何が問題なのか、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、環境制約と持続可能な開発といったテーマを、ジェンダーの視点を交えて扱う。

521208 開発経済学 II

【到達目標】

- ・開発経済学の基礎的な概念を習得し、状況を客観的に捉える力を身につける。
- ・SDGsにつながる具体的な政策及びその基盤となる理論を習得する。
- ・ジェンダーの視点を統合した分析を身につける。

【概要】 開発経済学は、人々の生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や格差の問題を扱い、その実態と原因を一国及びグローバルな視点で分析し、より良い経済発展の方策を探るための学問である。「開発経済学 II」では、グローバル化の現実を踏まえて、発展途上国の産業政策、貿易、直接投資、金融、債務、国境を越える人の移動といったマクロ経済分野を扱い、それらに関する政策及び国際的ルールや制度が経済成長と貧困削減にもたらす効果について、ジェンダーの視点を交えて考察する。

521209 国際開発論 I

【到達目標】

- ・国際開発に関する歴史的な経緯について理解する。
- ・国際開発に関する基本的な理論を理解する。
- ・国際開発のあり方を様々な観点から考察する。

【概要】 この授業では、第二次世界大戦後、先進国による途上国に対する開発援助がどのように始まり変化してきたのか、その歴史的経緯を確認する。また、開発援助における目的がどのように変化してきたのか、その変化に応じて開発援助の仕方がどのように変わってきたのかを理解する。さらに、国際開発を分析するための理論や概念など基本的な知識を身につける。国際開発に関わる問題を、様々な行為主体の観点から見ることを通して、多角的かつ理論的に問題分析できる力を身につける。

521210 国際開発論 II

【到達目標】

- ・国際開発に関わる個人、国家、組織などの活動を具体的に考察する。

- ・国際開発のあり方を実践的な観点から考える・
- ・国際開発に関する問題の所在を現代的な視点でから分析する。

【概要】 この授業では、国際開発論Ⅰで学んだ歴史や理論に基づいて、国際開発の具体的な事例を考える。国際開発に関わる様々な国際組織がどのような活動を行なっているか、国際開発に関わる国際組織の活動はどのように協力を進めているのか、先進国による援助政策は途上国の開発に結びついておりどのような効果を及ぼしているのか、NGOなどの非国家主体はどのように関わっているのかといったさまざまな問題を具体的な観点から紐解いていく。

521211 欧州統合論

【到達目標】

- ・欧州における統合の深化・拡大について学ぶ
- ・EUの政策の決定過程について学ぶ
- ・EUと加盟国の政治的経済的な関係について理解する

【概要】 この授業では、欧州における統合の史的な展開を見た上で、その現状分析を行う。なぜ欧州において主権国家を超える統合への動きが生じたのか、その動きがどのように現在のEUという形に結びついたのかを理解する。また、EU組織の特徴や加盟国との関係、共同市場の特徴などを学び、EUの政策がどのような過程で形成されているのかを学ぶ。EUが加盟国の政治や経済にどのような影響を及ぼしているのか、さらには国家間関係においてEUがどのように位置付けられているのかという点にまで考察を広げる。

521212 日本政治外交史Ⅰ

【到達目標】

- ・幕末から太平洋戦争前までの日本近代史を政治外交を中心に理解する。
- ・日本近代史の諸問題を現在の問題にひきつけて考えることができる。
- ・政治外交だけでなく社会の変容との関連を理解する。

【概要】 この講義では、幕末から太平洋戦争開戦までの日本近代史を論じる。その際、日本が西洋文明を受容する一方でそれに対抗しようとした矛盾に焦点をあてる。そのため、政治外交問題だけでなく社会のあり方や思想動向も講義する。受講者がたんなる過去の出来事として日本近代をとらえるのではなく、自分の問題として考えるようながしていきたい。通説を紹介するだけでなく、異説も紹介し、歴史を多角的にとらえることができるようにしたい。

521213 日本政治外交史Ⅱ

【到達目標】

- ・太平洋戦争から現在までの日本現代史を政治外交を中心に理解する。

- ・日本現代史を現在の社会に直結するものとして考えることができる。
- ・現在の国際問題や社会問題への理解を深める。

【概要】 この講義では、太平洋戦争から現在までの日本現代史を論じる。現在の日本社会がかかえる様々な問題が現代史の出来事とどのようにつながっているのかを理解することを主たる目的とする。そのため、受講者の刺激になるように、現在政治への厳しい批判や論争を紹介する。受講者が授業内容を「正解」と考え無批判に受け入れることがないように講義していく。受講者に多角的に社会をみる目をもたせることがこの授業の主たる目的である。

521214 朝鮮政治外交史Ⅰ

【到達目標】

- ・朝鮮半島の近代史を、日韓双方の視点から学ぶ
- ・一つの史実に対して多様な視点から理解しようとする姿勢を身に着ける
- ・歴史を過去の史実とだけ捉えるのではなく、今日にも続く大きな流れにある出来事として体系的に習得する。

【概要】 朝鮮史で近代の始まりとされる 19 世紀末・朝鮮王朝後期の「開港期」から、日本による韓国併合までの政治外交史を、東アジア国際関係との関わりに留意しながら理解することを目的とする。また、この講義では、日本の朝鮮史研究と韓国の国史研究の成果を紹介し、一つの史実に対して様々な解釈があることを可能な限り講義する。多様な歴史解釈があることを踏まえた上で、それらについてどのように考えるのか、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。

521215 朝鮮政治外交史Ⅱ

【到達目標】

- ・日本統治下の朝鮮の政治外交を体系的に習得する。
- ・日本と韓国の歴史教育における植民地期の扱いの違いなどについても学びを深めることで、一つの史実に対して多様な視点で理解しようとする姿勢を身に着ける。
- ・朝鮮の植民地化と近代化が同時並行で進んだ側面にも目を向け、広く社会・文化的な問題についても考える思考を養う。

【概要】 日本の植民地統治とそれをめぐる日韓の歴史認識問題を理解することを目的とする。植民地統治期については、政治外交史の基礎知識だけでなく、当時の朝鮮人が書いた日記や小説、近年の韓国で作られた映画なども題材とし、社会・文化的な側面にも目を向けながら理解を深める。また、日本の植民地支配が、日本と韓国の歴史教科書では、それぞれ「史実」をどのように論じているか、相違点に着目しながら、植民地期朝鮮についての歴史の知識を習得する。

521216 中国政治外交史Ⅰ

【到達目標】

- ・前近代の東アジア世界の秩序を理解する。
- ・東アジアにおける王朝国家と近代国家について理解する。
- ・19 世紀から 20 世紀前半の中国の対外関係を、中国国内の動向と関連させながら、その歴史的変遷を理解する。

【概要】 近代以前に中国を中心に成立していた東アジア世界が 19 世紀以降、西洋近代と対峙しつつ、どのような変容を遂げたのか、中国とその周辺との関係を、中国内部の動向と関連させながら、20 世紀前半までを概観する。清朝という王朝国家を倒して近代国家を建設し、近代的な外交に取り組むことによって亡国の危機を脱する試みのなかで、中国は何を、どのように考えて、行動したのかを中国に即して理解できるようにする。

521217 中国政治外交史Ⅱ

【到達目標】

- ・20 世紀半ば以降の中国の対外関係を理解する。
- ・中国国内の動向について、対外関係とも関連させながら、その歴史的変遷を理解する。
- ・近年の中国の「台頭」の歴史的背景を理解する。

【概要】 20 世紀半ば、第二次世界大戦の戦勝国として戦後秩序の構築に参画した中国が、内戦や冷戦など、その後の大きな変動のなかで、どのような紆余曲折を経て、近年再び大国の地位に復帰しつつあるのかについて、内外情勢を関連させながら概観する。国民党と共産党の対立、中国にとって社会主義とは何だったのか等の諸問題について歴史的背景を踏まえて考えることで、現在の中国や東アジアについての理解を深める。

【地域研究】

521218 アメリカ史Ⅰ

【到達目標】

- ・多文化社会としてのアメリカ史の基本を理解する。
- ・グローバルな視野からアメリカ史を捉える力を養う。
- ・アメリカ史における歴史叙述の変動や争点を理解する。

【概要】 アメリカ合衆国は、大陸内の諸地域あるいは大西洋や太平洋をへだてた他地域と政治的・経済的・文化的に深く関わりながらその歴史を生成させてきた。アメリカ史Ⅰでは、アメリカ大陸内における征服や海外展開をへながら多文化社会となったアメリカ合衆国の歴史を、グローバルかつローカルな視点を含めて概説する。また、アメリカ合衆国の歴史叙述のありかたがどのように変化してきたのかについての理解も深める。

521219 アメリカ史Ⅱ

【到達目標】

- ・アメリカ史の基本を政治的・経済的・文化的な側面から理解する。
- ・複数の観点を組み合わせてアメリカ史を捉える力を養う。
- ・アメリカ史における歴史叙述の変動や争点を理解する。

【概要】 自由や民主主義の理念と奴隷制や先住民征服との併存がよく示すように、アメリカ合衆国の歴史は、一見すると相反する理念や実践が複雑に絡み合いながら展開してきた。アメリカ史Ⅱでは、政治、経済、ジェンダー、文化など複数の側面を視野に入れてアメリカ史を概説し、それぞれの相互関連性を把握する力を養う。また、アメリカ合衆国の歴史叙述のありかたがどのように変化してきたのかについての理解も深める。

521220 香港・台湾論

【到達目標】

- ・香港が東アジアにおいていかなる特徴を持った地域であるのかを理解する。
- ・台湾が東アジアにおいていかなる特徴を持った地域であるのかを理解する。
- ・香港・台湾と中国の関係について理解することで、東アジアにおける国際秩序の特徴を理解する。

【概要】 香港、台湾の現状および、国際政治の中における位置づけを理解することを目指す。大陸の中国とは異なる政治・経済体制や歴史的来歴を持つ香港、台湾を分析することによって、中国という国の政治、経済、外交の性格を浮き彫りにすることも目指す。香港の歴史、香港の経済的役割、香港返還、返還後の中国の対香港政策、台湾の歴史、台湾の民主化、国民統合問題、大陸中国との関係、台湾をめぐる国際政治などを中心に講義を行う。

521221 現代中国論

【到達目標】

- ・現代中国の政治・社会・文化の構造や特徴を理解する。
- ・現代中国で見られる諸問題について、多角的に理解する。
- ・中国の将来的な発展の方向性を展望する力を養う。

【概要】 日本の隣国であり、急速な経済、社会の変化を見せる現代中国を理解することを目指す。広大な面積と巨大な人口を抱える中国は、2000年代以降、急速な経済成長によって国際的な影響力を高めてきた。政治面では共産党の一党体制が続き、経済面では大きな発展を遂げる一方、貧富の差が拡大や、新技術を応用した社会に対する監視の強化などの問題が顕在化している。これらの現象の形成過程や現状を理解し、今後の中国がどのような方向に発展していくのかを見通す力を養うことを目指す。

521222 現代韓国論

【到達目標】

- ・解放後の韓国現代史について基礎的知識を習得する。
- ・現代韓国社会における具体的諸問題について体系的に習得する。
- ・現代韓国の社会経済的構造に目を向ける。

【概要】 1945 年以降の大韓民国の成立から近年に至るまでの政治を理解することを目的とする。その変遷を捉える主な視点として、軍と政治の関係、争点による政治勢力の変化、経済開発で生じた政治的亀裂、体制の正統性、民主化を取り上げる。特に、開発独裁として知られる韓国の社会経済構造の歴史について学びを深める。この時に、アジア NIES として知られる他のアジア諸地域の社会経済の発展構造と比較し、韓国の経済発展の特徴・独自性をを知る。

521223 現代アメリカの動態

【到達目標】

- ・現代アメリカ社会に関する基礎的な知識を習得する。
- ・現代アメリカ社会で起こっている様々な出来事について構造面、現象面、歴史面から幅広く理解する。
- ・アメリカ社会の基礎知識を習得することにより、アメリカ社会並びに現代社会の問題をより体系的に理解する力を養うことを目指す。

【概要】 現代アメリカ社会に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。人種とエスニシティ、貧困問題、教育問題、犯罪問題などの個別の争点について、歴史的な変容過程も踏まえつつ解説を行う。それと同時に、それら個別の問題をコミュニティ統合の基礎理論である、アングロコンフォーミティ、メルティングポット、多文化主義などの概念の文脈と照らし合わせて、多様性を特徴とするアメリカ社会のより体系的な理解を目指す。

【文化人類学】

521224 民族誌特論

【到達目標】

- ・民族誌を読み解く方法を習得する。
- ・複数の異なる民族誌から他の社会・文化を比較検討するための方法を身につける。
- ・民族誌を通じて人類の存在諸様式を理解する。

【概要】 本授業は、隣接諸科学との関係の中で、文化人類学がおかれている位置とその特徴について把握し、かつ文化人類学の包括的な基礎知識を習得するために、多様な民族誌を読み解く力を身につける。同時に、その比較検討を行う視座を得るための議論を行う。扱う民族誌は「古典」とされるものから今日的な調査報告まで多岐にわたるが、それぞれ

の民族誌が書かれた歴史的文脈と学史的な背景に留意し検討を行う。履修者は本授業を通して、21世紀における人類の存在様式を人類学的にとらえることの意味と方法を身につける。

521225 人類学史・質的研究

【到達目標】

- ・文化人類学の学説史について、特に方法論の変遷に関する知識を身につける。
- ・文化人類学および隣接諸科学における質的調査をめぐる方法論とその変遷を理解する。
- ・文化人類学的研究における方法論の可能性とあり方について考察する力を習得する。

【概要】 本授業は、文化人類学の学説史について、特に方法論の変遷に関する知識を学び、また文化人類学および隣接諸科学における質的調査法について理解するための講義を行うことを目的とする。具体的には、文化人類学や社会学において今日行われている民族誌的調査とその歴史的背景、また隣接諸科学において行われている質的調査の方法とその変遷について議論する。そうした議論を踏まえ、履修者が文化人類学的研究における方法論の可能性とあり方について考察する力を獲得することを目指す。

521226 政治人類学

【到達目標】

- ・人類社会における政治現象を扱う他の学問と、民族学的・人類学的な研究との違いを理解する。
- ・政治人類学において扱う概念や考え方、学問の歴史についての知識を身につける。
- ・習得した基礎知識に基づき、世界各地の多様な政治現象についての個別の問題を考え考察する力を習得する。

【概要】 人類社会における政治現象に関する民族学的・人類学的な理解を深めることを目的とする。政治学や法学など他の社会科学が国家の存在を前提にしているのと異なり、政治人類学は人類に知られているあらゆる種類の社会(採集狩猟民社会から現代国家まで)における政治現象を研究対象にしてきた。そこで本授業では、人類学者による政治研究の歴史を概観したのち、人類のさまざまな社会における政治的行為、社会秩序の維持、部族・王国・共和国など政治体制、暴力と非暴力、戦争、平和など、多様なトピックのなかから事例を選んで講述する。

521227 人権・人道の人類学

【到達目標】

- ・世界各地の人権・人道に関する問題についての基礎知識を身につける。
- ・人権・人道をめぐる問題を人類学的に考察するにあたって必要とされる概念や考え方、学問の歴史についての知識を身につける。

・様々な地域・時代における人権、人道に関する文化・社会的状況とその動態を、人類学的アプローチに基づき理解する。

【概要】 本授業では、人権・人道をめぐる問題を人類学的に考察するにあたって必要とされる概念や考え方、学史的な背景についての知識を身につけることを目的とする。人類学はその歴史の中で、種としての人類の単一性の認識に基づく普遍的な人権・人道の理想を重視すると同時に、個々の社会の世界観や価値観に優劣はなく、人類の文化的多様性の維持は人類の存続にとって不可欠であると主張してきた。こうした普遍主義と相対主義が、現代世界の現実においてどのように相克してきたのかを学ぶ。さらに、様々な地域・時代における人権、人道に関する文化・社会的状況と動態を、人類学的アプローチに基づき検討する。

521228 南アジア社会特論

【到達目標】

- ・南アジアにおける風土・人間・社会・文化・歴史などについての知識を身につける。
- ・南アジア地域特有の社会的、歴史的、宗教的、文化的トピックについて考え理解する。
- ・南アジアにおけるさまざまな社会・文化的事象について、日本の状況と比較しながら考える姿勢を身につける。

【概要】 南アジア諸社会を特徴づける自然風土、人間集団、言語、社会構造、政治、宗教、芸術、日常生活などについて分析するための基礎的な知識と理解を得るための講義を行う。とりわけ、南アジアの歴史と文化を特徴づける多様性と統一の問題、その基盤にある宗教的意識の歴史的展開、近現代における宗教(ヒンドゥー教、イスラム教など)とナショナリズムの関係などの多様なトピックからいくつかの事例を取り上げて、南アジアに関する理解の土台を提供することを目標とする。

521229 イスラム社会特論

【到達目標】

- ・イスラム教とイスラム世界についての知識を身につける。
- ・イスラム社会特有の社会的、歴史的、文化的トピックについて考え理解する。
- ・イスラム教とイスラム世界におけるさまざまな社会・文化的事象について、日本の状況と比較しながら考える姿勢を身につける。

【概要】 西アジアに始まる多様な異文化との接触の中で、アフリカ、中央アジア、南アジア、東南アジア、東アジア、欧米などに広く展開したイスラム世界について、履修者がその分析を行うための知識と理解を得るための講義を行う。とりわけ、イスラム世界の地域的な多様性、非イスラム世界や資本主義との関わりなどに注意を払いながら、ムスリムの日常生活、宗派、思想・世界観、規範、祝祭、家族と婚姻、芸術、テロリズム、戦争などのトピックからいくつかの事例を取り上げて講述する。

521230 民族と現代世界

【到達目標】

- ・世界各地にある多様な民族をめぐる諸問題とその歴史的背景についての知識を身につける。
- ・民族をめぐる多領域での研究蓄積を学び、民族について学際的な視点から考察する力を身につける。
- ・グローバル社会における民族をめぐる現代的課題を理解する。

【概要】 民族という言葉で表出されるさまざまな現代的課題について、その歴史的背景を含めて考え議論することを目標として、民族、エスニシティ、アイデンティティ、ネーションといった概念に関する多領域（人類学、社会学、政治学など）にわたる研究蓄積を紹介し考察していく。特に植民地支配、都市化、国境を越えた人の移動、政治、紛争といった多岐にわたる論点との関連を踏まえながら議論することで、グローバル社会における民族をめぐる現代的課題を理解することを目的とする。

【日本語教育】

521231 日本語教育研究概論Ⅰ

【到達目標】

- ・日本語教育とはどのような分野であるのか具体的なイメージが持てるようになる
- ・日本語を客観的に捉えられるようになる
- ・社会の中で言語教育が果たしている役割、果たすべき役割を理解できるようになる

【概要】 本概論では、日本語教師として持つべき基礎的能力に目を配りつつ、日本語教育が社会的行為であることを常に意識することができる日本語教師、あるいは、日本語学習支援者の育成を目指す。前期は日本語教育という分野の全体を概観した後、日本語を客観的に見る視点を養う。続いて、日本における言語政策や日本語教育の歴史について取り上げ、最後に日本語の説明力を高めるための活動を行う。すべての授業においてアクティブラーニング、反転学習を取り入れる。

521232 日本語教育研究概論Ⅱ

【到達目標】

- ・日本語による説明能力を高める
- ・日本語教育の多様性と関連していることがらに対する理解を深める
- ・教室活動の準備や実践方法などの理解とともに実践能力を高める

【概要】 本概論では、日本語教育研究概論Ⅰで得た知識を基礎として、教材分析や授業の流れ、様々な教室活動とその組み立て方を取り上げる。

狭い意味での教室活動の知識や技術の習得だけに焦点を当てるのではなく、社会の中での日本語教育実践という視点から、言語能力の伸長だけではなく人間としての成長を目指す言語教育のあり方を考えていくこととする。すべての授業においてアクティブラーニング、反転学習を取り入れる。また、模擬授業的な発表の機会を多く取り入れていくこととする。

【教職関連科目】

521233 人文地理学

【到達目標】

- ・人文地理学の研究対象を理解し、その研究方法を習得する。
- ・地図の活用法を習得する。
- ・将来、地理教育の現場に立った際、調べ学習などの教材になりうるテーマを習得する。

【概要】 人文地理学の主要分野である地理教育史・歴史地理学・社会文化地理学を取り上げる。まずは、地理教育と地理教科書の歴史を学ぶ。続いて、歴史地理学・社会文化地理学の視点から、日本ならびに世界各地の事例を用いて、都市・宗教・ジェンダー・エスニシティなどの問題を考察する。

521234 自然地理学

【到達目標】

- ・自然環境および自然災害を地理学的に捉え理解する。
- ・地球環境変動および地震災害の原因と実態について理解する。
- ・地形図と空中写真を用いた地形判読をする知識と技術を身につける。

【概要】 自然環境および自然災害を地理学的に解析することを目標とする。地球環境変動および地震・地震災害の原因と実態について理解するために、地球温暖化、ヒートアイランド現象、エルニーニョ現象とラニーニャ現象、プレート境界型地震、活断層型地震などのテーマを取り上げる。地形図と空中写真を用いた地形判読の実習を行う。

521235 地誌学

【到達目標】

- ・地理を担当する教師として、多様な地域の地誌を教えるための基礎的な理論と方法を身につける。
- ・目的に応じて統計データを選択、加工する方法を取得する。
- ・変化する世界情勢に関心を持ち、既存の社会認識に対する新たな視点を獲得する。

【概要】 地理学・人類学・民俗学・経済学・歴史学などの学問分野と複層的に関連する地誌を学ぶ。なじみの薄いと思われる地域も積極的に取り上げ、多角的な視野から日本と世界の地誌を理解する力を身につける。講義では、地誌学を学ぶために統計データを取得す

る方法や、必要な資料をデータから抽出・作成する方法、地図の読み方なども習得する。

■発展講義

【国際関係学】

521301 国際政治経済Ⅰ

【到達目標】

- ・経済学の基本的な知識を身につける
- ・国際政治経済の基本的な理論や概念を理解する
- ・通商および金融を中心に、国際政治経済の歴史的な経緯を学ぶ

【概要】 今日の国際経済をめぐっては複雑かつ多様な問題が次々と生じており、そのほぼ全てにおいて政治が関わっている。この授業では、この経済と政治の関わり方を学んでいく。まず、「経済」に関する基本的な理解を確かめる。そして、近現代における国際経済の変化とその背景を、通商と金融に焦点を当てて学び、国際関係をめぐる政治と経済がどのように相互に関係しているのかを理解する。その上で、国際政治経済を理解する上で有用となる基本的な考え方や理論を理解する。

521302 国際政治経済Ⅱ

【到達目標】

- ・国際政治経済の基本的な理論や概念を理解する。
- ・理論や概念を用いて、国際政治経済に関する具体的事象を説明できるようになる。
- ・自分の意見の効果的な述べ方やまとめ方を習得する。

【概要】 この授業では、国際政治経済Ⅰで学んだ基本的な理論や概念を用いて、国際経済をめぐる様々な事例を分析する。貿易の自由化と保護主義の拡大、多国間貿易交渉の停滞と地域間の自由化の動き、世界的な金融危機の要因とその拡大、環境保全に向けた国家間協力、持続可能な開発と産業界の動き、人権保護とその問題点などのテーマを取り上げ、ディスカッションやディベートを通して、問題のあり方やその解決方法を具体的に考えていくことを目指す。

521303 比較政治学Ⅰ

【到達目標】

- ・比較政治学の基礎的な概念を理解する。
これまでに学界や政界で受け入れられた主な政治思想を理解する。
- ・社会問題の解決のために、どのような政治体制を構築すべきかについて、自分の意見を説明できるようになる。

【概要】 グローバル化という現象は経済にとどまらず、政治の分野でも進行しており、その一つの結果がリベラル・デモクラシーというモデルの普及である。しかしリベラル・デモクラシーは常に別の思想の挑戦を受けてきており、その挑戦は現在でも続いている。人間社会をより良くするための意思決定はどのような政治体制で可能であるのか。これまでの主な政治思想を把握した上で、受講者が自分なりの意見を持てるようになることが本講義の目的である。

521304 比較政治学 II

【到達目標】

- ・主権国家体系の成立と変容を理解する。
- ・実際に出現した政治体制の多様性を理解する。

世界の国々の主権国家成立過程と現在の問題との関連について説明できるようになる。

【概要】 現在の主権国家体系の元となった西欧国家体系は17世紀に西欧で出現したとされる。それが19世紀にラテンアメリカ諸国が独立するとともにインドや中国が西欧国家体系に組み込まれ、第一次世界大戦後に中欧と東欧諸国、第二次世界大戦後にはアジア・アフリカ諸国が独立することによって世界に広がった。主権国家の成立過程は各地域でどのようなものだったのか。そして現在どのような問題が起こっているのか。主権国家成立の歴史的経緯を把握した上で、受講者が現在の国際問題について自分なりの意見を持てるようになることが本講義の目的である。

521305 近現代日本研究 I

【到達目標】

- ・日本の近現代をグローバルな視点でみることができる。
- ・現在社会の諸問題を歴史的な観点で考えることができる。
- ・国家、人種、国籍など、現在のわれわれを束縛する概念の意味を理解する。

【概要】 この講義では、グローバル・ヒストリーの歴史のとらえかたをふまえ、近現代日本をめぐる諸問題を、テーマ別に論じる。通史的に講義するのではなく、テーマごとにその背景と展開を国際社会との関連を重視して考察をすすめる。なるべく受講者を刺激するようなテーマを選び、現在の社会との関係、問題の解決策を考えるようにうながしていく。自分の問題として、近現代史の展開をとらえ、今自分のおかれている位置を考えることができるような授業構成としたい。

521306 近現代日本研究 II

【到達目標】

- ・日本の歴史がどのように「つくられた」のかを理解する。
- ・現在の歴史認識が日本近現代の諸事情を反映したものであることを理解する。

- ・歴史修正主義の問題と背景を理解する。

【概要】 この講義は、日本近現代史学史を扱う。ただし、学界における学説の変遷などではなく、歴史学の成立と史書の書かれ方を社会史的に論じる。様々な歴史の語られ方を紹介するが、最終的に、歴史修正主義が生まれた背景、それが支持される理由、それにいかに向き合うのかを考えることが目的である。歴史修正主義を批判することより、人々が歴史修正主義に惹かれるようになった社会の動向を理解できるようにしたい。歴史が社会のなかで「つくられる」ものであること、それを認識した上で、歴史を学ぶことの重要性を考えてもらえるようにしたい。

521307 アメリカ研究（政治・外交）Ⅰ

【到達目標】

- ・植民地時代から第 2 次大戦までのアメリカ外交の歴史を、アメリカの政治的伝統や時代ごとの国際環境と関連付けながら理解する。
- ・植民地時代から第 2 次大戦までのアメリカ外交史の基礎知識を習得することにより、現代アメリカ外交を中心とする国際政治をより体系的に理解する力を養う。・アメリカ外交史を学ぶことを通じてアメリカ社会の特質をより深く理解する能力を身に着ける。

【概要】 アメリカの政治・外交の特質について、歴史、社会、経済、思想、国際関係など、さまざまな角度から論じ、総合的に体系的に理解することを目標とする。特に、歴史的な視点、アメリカにおける国内政治と外交の関連、国際社会におけるアメリカの位置づけ、などを重視し、個別の事象の表面的な理解にとどまらない、立体的なアメリカ像の構築を目指す。本講義では、アメリカ政治・外交の成り立ちからその展開過程を中心に考察する。

521308 アメリカ研究（政治・外交）Ⅱ

【到達目標】

- ・冷戦史を軸に、第二次大戦以降現代までのアメリカ外交史を、アメリカの歴史的伝統や国際関係と関連させながら理解する。
- ・戦後アメリカ外交史の基礎知識を習得することにより、現代アメリカ外交を中心とする国際政治をより体系的に理解する力を養う。
- ・アメリカ外交史を学ぶことを通じてアメリカ社会の特質をより深く理解する能力を身に着ける。

【概要】 アメリカの政治・外交の特質について、歴史、社会、経済、思想、国際関係など、さまざまな角度から論じ、総合的・体系的に理解することを目標とする。特に、歴史的な視点、アメリカにおける国内政治と外交の関連、国際社会におけるアメリカの位置づけ、などを重視し、個別の事象の表面的な理解にとどまらない、立体的なアメリカ像の構築を目指す。本講義では、「アメリカ研究(政治・外交)Ⅰ」を踏まえ、アメリカが覇権国となる過程での政治・外交の変容やアメリカ外交の現代的意義を中心に考察する。

521309 国際平和研究Ⅰ

【到達目標】

- ・国際社会における紛争の平和的解決や武力行使の規制に関する国際法を理解する。
- ・今現在生じている具体的な国際問題・紛争を、自分自身で国際法の視点から考察して説明できるようになる。
- ・今日の国際紛争や国際判例の分析を通して、紛争の平和的解決の意義とその限界を認識できるようにする。

【概要】 この講義では、国際社会における平和を実現するための国際法を学ぶ。国家間の対立や紛争をいかに平和的に処理するかが、国際平和にとって最大の課題である。そこで、国際紛争の平和的解決手続きを概観する。その際には国内での紛争解決との違いを認識することが、国際社会の特質を理解することに資する。かりに、平和的解決が失敗し、武力行使という手段に訴える場合にも、その開始は無制約ではない。国際法における武力行使規制の法構造を理解するとともに、時代ごとに少しずつ変容する国際法の態様を履修者とともに考察していく。

521310 国際平和研究Ⅱ

【到達目標】

- ・国際社会における集団安全保障体制の法構造と国連平和維持活動（PKO）の意義と問題点を理解する。
- ・武力紛争において適用される国際法（武力紛争法）の基本構造を理解する。
- ・今現在生じている具体的な国際問題・紛争を、自分自身で国際法の視点から考察して説明できるようになる。

【概要】 この講義では、国際社会における平和を維持し、回復するための国際法を学ぶ。とくに、2 度の世界大戦を踏まえて構築された国際連合の集団安全保障体制やそれを補完する国連平和維持活動（PKO）を理解していく。国際の平和と安全の維持が限界に達し、武力紛争が発生した場合であっても、その紛争が法の外側に置かれるわけではない。この国際平和研究Ⅱでは、武力紛争に適用される国際法における戦闘手段・方法の規制とその履行確保手段を学ぶことによって、人道の実現と平和の回復への道筋を検討していく。

521311 国際協力とジェンダーⅠ

【到達目標】

- ・具体的な事例を通じて、国際協力の多様なアクターと方法を理解する。
- ・地域の歴史、政治、経済、ジェンダーを含む社会の状況と国際関係に関する知識を習得する。
- ・ジェンダー課題を見定める視点を獲得する。・ジェンダー平等推進のための思想、社会運

動、制度構築について習得する。

【概要】 国際協力とは、紛争解決、貧困撲滅、差別撤廃、人権擁護といった目的のために、国境をこえて、国際機関、政府、CBOs（NGO、女性団体、住民組織）など様々なアクターが協働する行動である。「国際開発とジェンダーI」では、紛争及び紛争後の平和構築と復興開発の過程で発生するジェンダーによる暴力、差別、格差の実態を明らかにしながら、ジェンダー平等とジェンダー正義の実現に尽力する人々とともに歩む国際協力のあり方を考える。

521312 国際協力とジェンダーⅡ

【到達目標】

- ・具体的な事例を通じて、国際協力の多様なアクターと方法を理解する。
- ・地域の歴史、政治、経済、ジェンダーを含む社会の状況と国際関係に関する知識を習得する
- ・ジェンダー課題を見定める視点を獲得する。
- ・ジェンダー平等推進のための思想、社会運動、制度構築について習得する。

【概要】 国際協力とは、紛争解決、貧困撲滅、差別撤廃、人権擁護といった目的のために、国境をこえて、国際機関、政府、CBOs（NGO、女性団体、住民組織）など様々なアクターが協働する行動である。「国際協力とジェンダーII」では、経済開発とグローバル化の過程で発生する労働、人身取引、GBV、教育、保健・医療、水、エネルギー、金融へのアクセス、財産権、農業、環境・自然資源管理という課題をジェンダーの視点から捉え、国際協力のあり方を考える。

521313 人間の安全保障Ⅰ

【到達目標】

- ・国連などの国際組織や NGO の人道的支援活動について具体的に学ぶ。
- ・人間の安全保障に関する実践的なあり方や問題点について理解を深める。
- ・「人間の安全保障」を通して現代国際社会に対する自分自身の問題関心を養う

【概要】 「人間の安全保障Ⅰ」に引き続き、「人間の安全保障」の概念とその実践のあり方を学ぶ。「人間の安全保障」は、今日、国際平和、持続可能な開発、人道的介入、人権保護など様々な分野において重要な課題となっている。これらの分野における、国家、国連などの国際組織、NGO などが行なっている活動を具体的に検討することを通して、人間の安全保障の実現において何が問題となっているのか、将来における課題は何かについて考える。

521314 人間の安全保障Ⅱ

【到達目標】

- ・国連などの国際組織や NGO の人道的支援活動について具体的に学ぶ。

- ・人間の安全保障に関する実践的なあり方や問題点について理解を深める。
- ・「人間の安全保障」を通して現代国際社会に対する自分自身の問題関心を養う

【概要】 「人間の安全保障Ⅰ」に引き続き、「人間の安全保障」の概念とその実践のあり方を学ぶ。「人間の安全保障」は、今日、国際平和、持続可能な開発、人道的介入、人権保護など様々な分野において重要な課題となっている。これらの分野における、国家、国連などの国際組織、NGO などが行なっている活動を具体的に検討することを通して、人間の安全保障の実現において何が問題となっているのか、将来における課題は何かについて考える。

【地域研究】

521315 朝鮮研究Ⅰ

【到達目標】

- ・1945 年以降の朝鮮半島の社会、文化、政治、経済、国際関係を体系的に理解する。・1945 年以降の朝鮮半島の社会、文化、政治、経済、国際関係に関わる具体的な諸問題を通し、基礎的な知識を身に着ける。・朝鮮語の資料を読む力も養う。

【概要】 地域研究としての朝鮮研究は、朝鮮半島の歴史、社会、文化、政治、経済、国際関係の諸問題をあらゆる学問的アプローチを動員して現地に密着した視点から深く理解しようとするものがある。朝鮮研究Ⅰでは、今日の朝鮮半島を理解するために、大韓民国と朝鮮民主主義の成り立ちを、韓国や北朝鮮の視点から読み取ることを目指す。その後、現代韓国の土台となっている韓国の民主化運動の歴史を、北朝鮮との関係に留意しながら韓国社会の論理に即して理解する。

521316 朝鮮研究Ⅱ

【到達目標】

- ・1945 年以降の朝鮮半島の社会、文化、政治、経済、国際関係を体系的に理解する。・1945 年以降の朝鮮半島の社会、文化、政治、経済、国際関係に関わる具体的な諸問題を通し、基礎的な知識を身に付ける。・朝鮮語の資料を読む力も養う。

【概要】 この講義は、地域研究として、朝鮮半島の歴史、社会、文化、政治、経済、国際関係の諸問題を、あらゆる学問的アプローチを動員して韓国について学ぶ。韓国や日韓関係に密着した視点から、深く理解しようすることを目標に、個別具体的な諸問題について文献や映像など多様な資料を通して深く学ぶ。例えば、在日朝鮮人が抱える問題（国籍、教育、帰国問題、ハンセン病患者、被爆者など）や、日韓の女性の社会的地位の相違などである。

521317 アメリカ研究（社会史）Ⅰ

【到達目標】

- ・ジェンダーの概念と機能を理解する。
- ・ジェンダーの概念の歴史叙述への適用のありかたを理解する。
- ・南北戦争までのアメリカ史におけるジェンダーに基づく権力の振り分けの様態と変化を理解する。

【概要】 植民地時代から 19 世紀中葉までのアメリカの歴史を、ジェンダーという概念を基軸として概説する。アメリカ史における主要な出来事の中で、男女の差異はどのような意味をもったのか、女性たちはどのような役割を果たしていたのか、また、それらの出来事はジェンダーの構築をどのように変えたのかといった問題を考える。ジェンダーの視点から 歴史を見ることで、私的關係性の中にも権力関係が存在することに気づきを与え、日常性の細部に歴史的背景を見いだす目を養いたい。

521318 アメリカ研究（社会史）II**【到達目標】**

- ・ジェンダーの概念と機能を理解する。
- ・ジェンダーの概念の歴史叙述への適用のありかたを理解する。
- ・南北戦争から現代までのアメリカ史におけるジェンダーに基づく権力の振り分けの様態と変化を理解する。

【概要】 19 世紀中葉から現代までのアメリカの歴史を、ジェンダーという概念を基軸として概説する。アメリカ史における主要な出来事の中で、男女の差異はどのような意味をもったのか、女性たちはどのような役割を果たしていたのか、また、それらの出来事はジェンダーの構築をどのように変えたのか、といった問題を考える。ジェンダーの視点から 歴史を とらえることで、私的關係性の中にも権力関係が存在することに気づきを与え、日常の細部に歴史的背景を見いだす目を養いたい。

521319 中国研究 I**【到達目標】**

- ・中国に関する多様な研究の成果を理解する。
- ・中国を中心に、東アジアの国際関係を理解する視角を獲得する。
- ・自分自身の問題意識に即して、中国という国家を理解するための方法を獲得する。

【概要】 受講者が自らの問題意識に即して、自分なりの中国像、ひいては東アジア像を獲得することを目指す。中国の多様な側面について、歴史や思想、政治・外交、経済、社会、文化などの視角から、資料や既存の研究成果に基づき理解を深める。また、中国と周辺地域との関係や、国際社会において中国が果たしている役割について学ぶことを通じ、東アジアの国際関係への理解を深める。中国の諸側面についての個別的な理解を深めると同時に、個別の事例を総合的に理解する方法についても検討する。

521320 中国研究Ⅱ

【到達目標】

- ・東アジア世界の変動のなかで中国を考えるための論点について理解する。
- ・中国の地域的特徴について理解するための方法を身につける
- ・近現代の日本社会、ならびに東アジア各地や欧米社会が中国をどう見てきたかを理解する。

【概要】 地域研究として中国、あるいは東アジアの特定地域について研究をする際の方法の習得を目指す。前近代以来の歴史的背景をふまえて東アジア世界のなかに中国を位置づけるとともに、近現代の日本が中国や東アジア諸地域をどのように見てきたかについて、具体的な資料や研究成果に基づき理解を深める。その知見に基づき、経済発展やグローバル化、情報技術革命のなかで大きな構造変動に直面している中国および東アジアを総合的に理解する眼を養う。

【文化人類学】

521321 周縁世界とグローバル化Ⅰ

【到達目標】

- ・植民地化以前・植民地支配期の周縁世界についての知識を身につける。
- ・植民地化以前・支配期の周辺世界における社会・文化・政治・宗教等のトピックについて学び理解する。
- ・習得した基礎知識に基づき、周辺社会における個別の問題を考え分析する力を習得する。

【概要】 周縁世界(例えば東南アジア、オセアニア、南アジア、西アジア、中央アジア、アフリカ)と先進世界との関わりを通時的な観点から理解する。主に植民地化以前および植民地支配期を中心に、周縁世界の「伝統的」な民族社会、首長国、王国の生活様式、社会構造、政治システム、生産様式、宗教などを概観した上で、イスラム世界やキリスト教世界からの交易・布教の働きかけ、奴隷交易、植民地化、現地社会からの対抗運動、資本主義の浸透など、多様なトピックから事例を選び議論する。

521322 周縁世界とグローバル化Ⅱ

【到達目標】

- ・第二次世界大戦後の植民地独立以降の時代における周縁世界についての知識を身につける。
- ・ポストコロニアル国家およびその元宗主国において生じている現代的問題について理解する。
- ・周辺世界を捉える視野を広げ、先進国中心の観点を脱し世界を見る多様な視点を習得する。

る。

【概要】 周縁世界(例えば東南アジア、オセアニア、南アジア、西アジア、中央アジア、アフリカ)と先進世界との関わりを通時的な観点から理解する。主に第二次世界大戦後の植民地独立以降の時代を中心に、植民地の独立運動、ポストコロニアル国家の形成と失敗、国家の暴力、民族紛争、ジェノサイド、移民と難民、開発と貧困、新興宗教やカルト、疎外と格差、HIV/AIDS、人身売買など、多様な現代的トピックから事例を選び、可能な限り現地からの視点で議論する。

521323 地域比較文化論

【到達目標】

- ・世界各地のさまざまな地域文化のありようについて理解する。
- ・世界各地のさまざまな地域文化を比較検討する視座を身につける。
- ・世界の多様な文化とそのダイナミックな変化や交流を検討し、学際的な視点から地域文化を総合的に検討する力を身につける。

【概要】 本授業は、履修者が、先進国・途上国を問わず、世界各地のさまざまな地域文化のありようについて理解し、それらを比較検討する視座を獲得することを目的とする。特に、グローバル社会における地域文化のダイナミックな変化や、多文化間の交流、融合等の過程に着目し、またそれぞれの文化にみられる多様な価値観や人々の実践を踏まえつつそれを体系的・横断的に捉え、学際的な視点から地域文化を総合的に検討する力を身につけるための講義を行う。

521324 医療人類学

【到達目標】

- ・人類社会における医療や健康に関する事象を文化人類学的視点から分析することの意義を理解する。
- ・医療人類学において扱う概念や考え方、学問の歴史についての知識を身につける。
- ・習得した知識に基づき、世界各地の医療・健康・病いをめぐる個別の問題とその変化を文化・社会的側面から考察する力を習得する。

【概要】 人類社会における医療や健康に関する民族学的・人類学的な理解を深めるために、医療人類学の学説史や、そこで用いられる多様な概念について学び、以って世界各地の多様な医療をめぐる個別の問題を、履修者各自が文化・社会的側面から考察する力を得るための講義を行うことを目的とする。多元的な医療システム、身体加工、リプロダクティブヘルス・ライツ、食と栄養、精神医療、儀礼、グローバル・ヘルスなどの様々な現代的トピックを扱い、その社会文化的背景、政治経済的な構造上の問題などを踏まえた議論を行う。

【日本語教育】

521325 日本語教育研究Ⅰ

【到達目標】

日本語教育の多様性を理解し、それぞれの学習者に対応した教育が考えられるよう、以下の力を身につける。

- ・日本語教育と行政の関わりについて調べることができる。
- ・直接法による日本語授業の手順、注意点について理解する。
- ・学習者の目的によって、教科書や教え方がどのように異なるのか、理解する。
- ・日本語 e ラーニング教材のポータルサイトから学習者に適切な教材が探せる。
- ・日本語授業を行うにあたって、授業者を支援する適切な情報にアクセスできる。
- ・「やさしい日本語」の概念を知り、その書き方を支援する方法がわかる。

【概要】 ・日本国内の日本語教育機関で多く採用されている直接法による授業に対応できるようにする。特に日本語教員養成課程の科目で身につけた様々な知識を、直接法による授業において「やさしい日本語」でどのように教えるのか、見ていく。

- ・日本語学習者の目的に応じて、教え方がどのように異なるのか、文型積み上げ方式、場面シラバス、タスク型の教科書を取り上げ、横断的に教材分析をすることを通じて理解を深める。
- ・日本語 e ラーニング教材のポータルサイトから、日本語授業のリソース、日本語学習の予習・復習に役立つ教材を探せるようにする。

521326 日本語教育研究Ⅱ

【到達目標】

- ・日本語教育の内容と方法について、学習者特性や環境等の要因を考慮して考えることができる。
- ・日本語非母語話者とのコミュニケーション場面で必要となる配慮についての知識を得て、実践での様々な工夫を試みることができる。
- ・学習／教育に関する多様な理論や考え方を学び、自身の学習観、教育観を内省し、他者との相違を検討することができる。
- ・日本語教育を他の多文化共生政策・活動と関連付けて理解することができる。

【概要】 「日本語教育研究Ⅰ」を踏まえて、日本語教育の多様な実践について社会的要因と学習者要因の両面から理解する視点を身につける。具体的には、4年次の実習に向けて自分自身が日本語学習の場において何ができるかを考え、実践の基礎となる異文化コミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、日本語非母語話者が日本語によるコミュニケーション場面で直面する困難点を意識し、彼らの理解を容易にするための工夫や支援の方法について、学習やコミュニケーションに関する理論の理解とその具体化を通して

学ぶ。その上で、近年の外国人の増加・定住化に伴う地域社会の多文化化の進展を踏まえ、多文化共生社会の形成に向けた日本語教育の役割・意義について考える。

■特別科目

521401 実践時事英語Ⅰ

【到達目標】

- ・時事英単語を覚える。
- ・英語で時事問題を議論する能力を獲得する。
- ・スムーズで聞き取りやすい英語の発音を獲得する。
- ・日本語と英語を結びつけ、両者の間を行き来する能力を獲得する。

【概要】 英語の運用能力を高めるための、訓練を中心にした授業である。週2回、180分の訓練機会を設け、毎回覚えるべき時事英単語のリストを提示し、単語のテストをし、単語力の強化を図る。授業では、音読や暗唱、シャドーイング等の手法を使い、発声訓練を行う。本授業を受けるに際しての英語レベルが低い場合も高い場合もやる気さえあれば、それなりに英語運用能力の向上が期待できる。時事英語の実践的な能力向上を望む学生のために、特別に用意したプログラムである。

521402 実践時事英語Ⅱ

【到達目標】

- ・時事英単語を覚える。
- ・英語で時事問題を議論する能力を獲得する。
- ・スムーズで聞き取りやすい英語の発音を獲得する。
- ・日本語と英語を結びつけ、両者の間を行き来する能力を獲得する。

【概要】 実践時事英語Ⅰを履修した学生を対象に、さらなる時事英語の実践的な能力向上を目指す授業である。週2回、180分の訓練機会を設け、毎回覚えるべき時事英単語のリストを提示し、単語のテストをし、単語力の強化を図るとともに、音読や暗唱、シャドーイング等の手法を使い、発声訓練を行う。読み、聞き、発声する能力を同時に鍛えていく。十分な英語能力を獲得した学生は、英語を日本語に、日本語を英語にする訓練も経験することができる。

521403 海外研修

【到達目標】

- ・国際的な問題に向けた対策が行われている現場に触れ、現実的に問題を考察する感性を身につける
- ・外国語を用いて、国際的な問題を捉え直す。

- ・自分の考えや疑問を外国語で伝え、ディスカッションする力を身につける。

【概要】

この授業では、海外において平和の実現や開発援助といった国際問題に取り組んでいる組織を視察したり、海外援助や人道的援助といった問題に関わっている当事者を訪問するなどの実地研修を行うものである。国際問題の内容や解決のあり方をリアリティをもって理解し、多角的な見地から考察する力を伸ばしていく。またが、外国語と用いて国際的な問題を捉え直し、自分の考えや疑問を当事者に伝え、ディスカッションする能力を身につける。

■基盤演習

521501 基礎演習（国際社会）Ⅰ

【到達目標】

- ・スタディ・スキルの基礎を理解し、実践できるようにする。
- ・スチューデント・スキルを身につける。・専攻を構成する複数のでディシプリンについての基礎知識を習得する。

【概要】 新入生が無理なく大学での学習に臨めるような能力の基礎を身に着ける。具体的には大学での学習に必要なスタディ・スキル(レポート・小論文の書き方、口頭発表の仕方、図書館やインターネットを使った文献の探し方など)および、スチューデント・スキル(大学生に求められる一般常識や態度など)が身につくような教育を重点的に行う。そして専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについて 初歩的な理解が得られるようにする。

521502 基礎演習（国際社会）Ⅱ

【到達目標】

- ・前期で習得したスタディ・スキルの基礎の充実を図る。・スチューデント・スキルをさらに発展させる。
- ・2年次以降の専門研究の基礎となる文献の読解力理解力を高める。

【概要】 前期で学んだスタディ・スキルを自律的に活用できるようにすることを目指す。レポート・小論文における論理性を高め、口頭発表における表現力のさらなる向上を目指す。授業内でのディスカッションなどを通じて、学問的議論とはどういうことかを学び、スチューデント・スキルのさらなる向上をはかる。専攻を構成するディシプリンとの関連を理解しながら学術的文献を読み、レポートをまとめていくことで、自分の言葉で表現する力を高めていく。

521503 2年次演習（国際社会）Ⅰ

【到達目標】

- ・1 年次に習得したスタディ・スキルを確実なものとする。・スチューデント・スキルを確実なものにする。

- ・専攻を構成する複数のディシプリンの一つについて、その基礎を理解する。

【概要】 1 年次の演習に引き続きスタディ・スキル、スチューデント・スキルを習得させ、専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについてその基礎を理解し、学生各自が自分の個人的な問題意識を深自覚できるようにする。そして自分の問題意識を他人にも理解できる言葉で表現し議論ができるよう訓練する。隣接する地域やディシプリンについても視野を広げるように指導することで、3 年次における専門的研究への橋渡しを行う。

521504 2 年次演習（国際社会）Ⅱ

【到達目標】

- ・スタディ・スキル、スチューデントスキルの一層の内面化を目指す。・専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについて、専門領域の基礎文献を一層深く理解できるようにする。
- ・自身の問題意識に基づいて、ディシプリンの基礎をふまえた小論文を書く能力を身に着ける。

【概要】 スチューデントスキル、スタディスキルを実践を通じて定着させ、その内面化を図る。授業内での発表やディスカッションを通じて、学生各自が自分の個人的な問題意識を他人にも理解できる言葉で表現し議論ができるよう訓練する。さらに3 年次以降の専門研究において、学生がどのような専門分野に進むか自ら選択できるように各自の問題意識を高めていくことを目指し、その第一歩として年度末の小論文作成を指導する。

■発展演習

521601 3 年次演習（国際社会）Ⅰ

【到達目標】

- ・専門研究に必要な方法を習得する。
- ・それを具体的なテーマに即して実践することで、学術研究の基礎的能力を身につける。
- ・その成果をディシプリンの方法や用語を使って説明することができる。

【概要】 卒業論文を作成する前段階として、各自の専門研究を深めることを目的とする。指導教員によって担当される応用講義の科目を並行して受講しながら、専門分野についての知識を深めると同時に、専門分野の学術的文献を精読し知識に幅と深みを持たせる。また演習では教員の指導を受けながら、専門分野の方法論を一通り学んで、後期以降の学習に備える。さらに演習における発表やディスカッションを通じて、学術的ディスカッションの質を一層高めていくことも目標とする。

521602 3 年次演習（国際社会）Ⅱ

【到達目標】

- ・専門研究に必要な方法を習得する。
- ・それを具体的なテーマに即して実践することで、学術研究の基礎的能力を身につける。
- ・その成果をディシプリンの方法や用語を使って説明することができる。
- ・専門的な考察を経た短い論文を作成することができる。

【概要】 卒業論文を作成する前段階として、各自の専門研究をさらに深めることを目的とする。演習では学術的文献の精読を継続すると同時に、自分の問題関心との連関を意識しながら先行研究の調査を行いつつ自分の研究テーマを絞り込んでいく。そしてプレゼンテーションを通じて相互にディスカッションを行い、客観的に自分のテーマを見つめていく作業を行う。卒業論文への助走としてのゼミ小論文を作成することをこの演習の最終目的とする。

521603 4 年次演習（国際社会）Ⅰ

【到達目標】

- ・自分自身の問題意識に即したテーマを見出す。
- ・そのテーマに即して、3 年次までに習得した方法を用いて、研究する能力を身につける。
- ・研究の成果を学術的な手続きを踏まえて報告し、討論できる能力を身につける。

【概要】 入学以来、3 年次までの演習で習得した知識に基づいて、各自のテーマを設定する。これまでの演習で身に着けたプレゼンテーションやディスカッションの力を生かし、自分のテーマについて口頭発表を行い、専門的な議論を行う。この演習における報告やディスカッションは、テーマに関する専門知識の交換の場 となると同時に、自己の論理を客観視する貴重な場となる。そして演習での学習を通じて専門分野への知的好奇心をいっそう深化させ、卒業論文の作成にも役立てていく。

521604 4 年次演習（国際社会）Ⅱ

【到達目標】

- ・自分自身の問題意識に即したテーマを見出す。
- ・そのテーマに即して、3 年次までに習得した方法を用いて、研究する能力を身につける。
- ・研究の成果を学術的な手続きを踏まえて報告し、討論できる能力を身につける。
- ・自分のテーマについて体系的に文章化する能力を身につける。

【概要】 入学以来、4 年次前期までの演習で習得したプレゼンテーションとディスカッションの力を生かして、自分のテーマについて口頭発表を行う。この演習における報告や相互討論は、テーマに関して 4 年間学んだ専門知識の集大成について、学術的手続きにのっとりながら発表を行う機会である。また演習における指導を通じて学術論文を作成するのに必要な技術をいっそう習熟させ、自分のテーマについての体系的で学術的な論文を完成

させる。

521605 日本語教育実習

【到達目標】

- ・日本語教育の実践において、その機関・教室や学習者について理解しようとする姿勢と、実践に関わる人々と協力して活動する態度を身につける。
- ・参加する学習活動の目的を理解し、自分の役割を考え、行動することができる。
- ・実践を分析的に振り返り、改善の方法を考えることができる。
- ・日本語教育の目的、日本語教師の役割や求められる資質・能力について、自身の実践経験と他者との共有を通してより深い理解を得る。

【概要】 学内および学外の日本語教育の実践現場をフィールドとし、それぞれのフィールドでの日本語学習支援を行うために必要な「事前準備」「実践」そして「振り返り」という教育の全体を経験する。

講義では、フィールドでの実践に必要な知識や各自の実践経験を分析的に内省・理解するための方法について取り上げ、実践の準備のサポートを行う。また学外教育機関でのフィールド実践の開始以降は、それぞれの経験を相互に共有し検討することで実践の理解を深める。

講義と平行して個人あるいはグループごとにフィールド実践の準備を進め、実習機関ごとに順次実践を行う。後期のはじめにそれぞれのフィールド実践についての振り返りをまとめ、公開報告会で発表する。報告会でのフィードバック等を踏まえて、報告書を作成する。

■卒業論文

521701 卒業論文

【到達目標】

- ・研究テーマを設定し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを学術的手続きをふまえた資料・文献の検討や調査等により検証する能力を養う。
- ・卒業論文の中間報告を通じて、学術的プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を養う。
- ・明確な根拠に基づいた論理的体系的な卒業論文を完成させる。

【概要】 卒業論文は、学際的に視野を広げ、また学問分野の体系的な知を身につけた勉強の総決算である。国際社会学科において 3 年次までに学んだ講義、演習などに基づいて、4 年次当初に各々の研究主題を決める。個別の研究指導を受けながら、学生が自主的に研究計画を立て、それぞれの主題に見合った文献研究、調査研究を実施する。随時研究成果をまとめて中間的な報告を行い、その上で論文を執筆してゆく。卒業論文提出後は、副査 1 名を交えて口述試験を行う。